

年度 2009 学期 後期	曜日・校時 金曜・2校時	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	ドイツ語IV (GermanIV)		
対象年次 2年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等) 2P18・19	科目分類 外国語科目(ドイツ語)		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室 担当教員:目 正勝 /Eメールアドレス:m79sakka@aol.com /研究室:(非常勤講師)			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい: 文法の基礎をさらに確実なものにして、応用段階へと進む。ドイツ語文の読解力や語彙を身につける。 ドイツの歴史や文化への理解を深める。</p> <p>授業方法: 前期に引き続いて、Otfried Preußler の「小さな魔女」を読んでゆく。 中世の「魔女裁判」のように、歴史上、「魔女」の存在が信じられたり、真剣に議論されたりした時代があった。今日では、「魔女」はユーモラスに語られる物語の素材として生き延びているようにみえる。本書も、厳しい合理主義、科学的見方から逃れて、自由な想像の世界に遊ぶという一面がある。それは、現実への批判や風刺を含む、楽しい読み物になっている。 テキストは平易な現代ドイツ語の散文なので、どんどん読み進むことができる。多読の楽しさを味わうことができるだろう。 教室では毎回 4～5 人の人に和訳をしてもらう。前もって割り当てておくので、当たった人はよく調べてこななければならない。 また、独作文の練習問題を適宜行うことで、文法の理解を深める。</p> <p>授業到達目標: 辞書を引きながらでも、現代ドイツ語の文章で特に難解なものでなければ概ね読むことができるまでに力をつけること。</p>			
<p>授業内容</p> <p>教科書「小さな魔女」全 49 ページ中、30 ページぐらい読む。毎回 5～6 人の人に和訳をしてもらう。 並行して、適宜独作文も。</p> <p>第1回 4～5 頁、和訳、過去の独作文。 第2回 5～6 頁、和訳、完了の独作文。 第3回 6～7 頁、和訳、受動態の独作文。 第4回 7～9 頁、和訳、関係代名詞の独作文。 第5回 9～11 頁、和訳、関係代名詞の独作文(2)。 第6回 11～13 頁、和訳、関係代名詞の独作文(3)。 第7回 13～15 頁、和訳、接続法の独作文。 第8回 15～17 頁、和訳、接続法の独作文(2)。 第9回 17～19 頁、和訳、接続法の独作文(3)。 第10回 19～21 頁、和訳、応用の独作文 第11回 21～23 頁、和訳、応用の独作文(2) 第12回 23～25 頁、和訳、応用の独作文(3) 第13回 25～27 頁、和訳、補足練習問題。 第14回 27～30 頁、和訳、補足練習問題(2)。 第15回 全授業のまとめ、定期試験</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	<p>教科書: 前期 「初級総仕上げ 2 度目のドイツ語」 木村クリスタ 他著 白水社 「小さな魔女」 加藤 宏 著 郁文堂 後期 「小さな魔女」(前期の続き)</p>		
成績評価の方法・基準等	○定期試験(約 90%)、および平素の学習成績、授業への参加状況(約 10%)を考慮して評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			